

ウミネコの行動から
見えてくるもの都市環境学専攻
物質環境構造学講座

鈴木 宏和さん 博士課程前期1年

かぶしま

青森県八戸市の蕪島は、国指定天然記念物のウミネコ繁殖地として、全国に知られる。ここをフィールドに、ウミネコの行動研究に取り組む依田研究室の鈴木さん。小型記録計を動物につけて行動や生態、環境を観る「バイオロギング」という研究手法で、鈴木さんは位置を記録するGPSデータロガーを使い、ウミネコの繁殖や採餌行動を記録・解析している。

毎年ウミネコの産卵が始まる4月に現地に入り、ヒナが巣立つ7月半ばまで、先輩たちと共同生活して滞在する。まずは飛来する数万羽のウミネコの中から、毎年同じ場所で営巣する、目印をつけた年齢の分かる個体を探す。その中には鈴木さんと同じ年または年上のものもいるようだ。卵が産み揃ったら、GPSデータロガーを親鳥の背中へ装着し、しばらくして蕪島に戻ってきた親鳥からロガーを回収する。そして、ロガーからパソコンにデータをダウンロードするのだが、この瞬間が一番緊張すると、鈴木さん。GPSデータロガーの不具合でデータが中に入っていないときもあって、そういう時は落ち込むと言う。こうしたGPSデータロガーを用いた調査によって、ウミネコがどこへ餌を採りに向かっているのかが分かってきた。蕪島で繁殖するウミネコは八戸近海や漁港、海鳥なのに水田へ行ったり、中には北海道苫小牧にまで行ったりすることもあるようだ。

毎年訪れる蕪島への愛着も生まれた。地元の人たちと話したり、ヒナの巣立ちを心配したり。「この場所を守るためにも知見を集めていくことが重要」と鈴木さん。ウミネコの行動を知り、時にはウミネコの視点で考える。「普通じゃできない経験。自分の世界を広げてくれた」と、充実の研究生活を楽しんでいる。



鈴木さん

蕪島神社は、昨年秋に全焼。「ウミネコが離れた時期なので直接影響はないと思いますが、地元の人たちはショックでしょう。境内で繁殖する個体もいるので、この春どう影響が出るか、気がかりです」。



ウミネコの背中に付いている黒い物体がGPSデータロガー。

親鳥からヒナが餌をもらっているところ。この写真のヒナは産まれてから5日ほど経っている。



陸地に見える白い点は全てウミネコ。

